

2026年3月卒者(大学・大学院卒) 「新卒者採用に関する進捗調査」 集計結果報告

公益財団法人就職支援財団が、県内企業の2026年3月卒業予定の新卒者(大学・大学院卒)採用活動の8月時点での状況について調査しました。

調査の趣旨

この調査は、静岡県内企業における新卒採用活動の現時点での進捗状況を収集し、企業・学校・学生へタイムリーに情報を展開することで、今年度の企業の採用活動、学生の就職活動への対応策提言の資料としていくものです。

調査要領

■調査対象

静岡県内企業の経営者もしくは人事担当者

従業員数: 49人以下29.5%、50～99人25.6%、100～299人24.4%、300人以上20.5%

業種: 製造業29.8%、建設業13.4%、卸売・小売業17.9%、サービス業36.0%、その他3.0%

■調査期間

2025年8月8日～8月31日

■調査方法

2025年5月実施「新卒者採用に関する実態調査」(しずおか産学就職連絡会)の調査票送付先及び、新卒媒体やイベント等で新卒者を募集している企業から1,000社を抽出。調査依頼文を郵送し、WEBサイトにてアンケート回答

■有効回答数

336サンプル (有効回答率 33.6%)

※集計は、調査対象のプロフィール以外、非該当・不明を除いて実施。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

<調査に関する問い合わせ先>

公益財団法人 就職支援財団

担当: 鈴木

TEL 054-271-3111

【総括】	3P
【調査結果】	
Ⅰ. 2026年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況	4P
Ⅱ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較	5P
Ⅲ. 採用活動終了企業の活動実績	6P
Ⅳ. 今年度の採用活動の状況	6P
Ⅴ. インターンシップの実施状況	7－8P
Ⅵ. 2027年3月卒者の採用活動について	8P

＜今年度採用活動の概況＞

売り手市場の傾向は続いているが一部で底打ち感も見られる。採用活動は早期化傾向にある。

- ①採用活動を継続している企業の割合は6割弱で昨年よりも増加した(図表1)。
- ②採用活動を継続している企業のうち採用計画人数の充足を見込めていない企業が62%で前年よりも増加した。(図表4)。
- ③応募者数、面接者数の減少傾向はやや底打ち感が見られる(図表6、8)。
- ④減少傾向が続いていた内定者数が増加傾向に転じた(図表9)。
- ⑤県東部地区の企業が苦戦している様子がうかがえる。計画人数の充足見込、応募者数、内定者数の前年度との比較について、いずれも他の地域よりも厳しい数値となっている(図表5、7、10)。
- ⑥採用活動を終了した企業のうち、今年の3月～5月に採用活動を終了した企業の割合が36%で、前年よりも10ポイント増加した(図表12)。

＜インターンシップ等(※)の概況＞

※三省合意で認められるインターンシップ以外に、これまでインターンシップと呼んでいた1日や2～3日の短期開催のものも含めて、当報告では「インターンシップ等」と表現します。

インターンシップ等の実施率は増加傾向にあり、開催期間の長期化、受入学生の低学年化が見られる。

- ①インターンシップ等の実施率は前年を上回り約6割となった(図表16)。
- ②実施期間は従前通り「1日」が最も多いが、前年よりもその割合は低下した。「2～3日間」「1週間程度」「2週間以上」の割合はいずれも増加した(図表17)。少しでも採用に繋がるように、参加学生とのグリップを強めることを意識しているのではないかな。
- ③受入学年は「大学3年生」が最も多いが、「大学1年生」「大学2年生」の割合が増加した(図表18)。
採用活動の早期化により「大学3年生」の動員が難しくなっていることから、大学1、2年生まで受入枠を拡げていると考えられる。

＜今後の採用活動について＞

早期化傾向はますます強まることが予想される。本格的な活動時期に入る前に、いかに低学年の学生と接触できるかが今後の活動の鍵になりそうだ。

売り手市場が続く新卒市場において、採用活動の早期化が顕著になっている。静岡の企業でも2027年3月卒者の採用活動を年内に開始する企業が3割となっており(図表21)、ますますその割合は増えることが予想される。4月の調査でも伝えた通り、学生は大学3年生の春から就職の意識が高まる。就職の意識が高まってしまうと、これまで知らなかった地方の中小企業への関心は向きにくくなるため、大学1、2年生のうちにいかに認知してもらえるかが重要となる。そのためにも様々な切り口で学生と接触する必要がある。これまでのように事業内容や業界を切り口にアピールするのではなく、自社で働く従業員にスポットをあててPRすることも有効だと考える。このように「人」にスポットをあてるなど、中小企業でも十分にアピールできる切り口でアプローチしてはどうだろうか。

前回伝えた通り、弊財団においても12月に社会人と大学1、2年生お互いが等身大で交流ができる、学生が企画・運営するイベントを実施予定である。

※総括及び調査結果のTOPICSのコメントにある“前年”とは、“前年同時期”の調査となります。

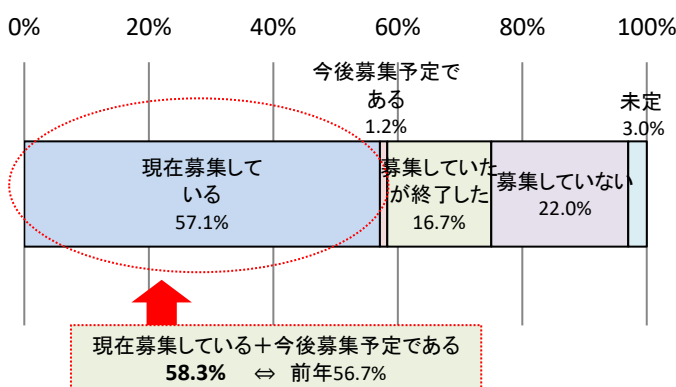
【調査結果】

I. 2026年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況

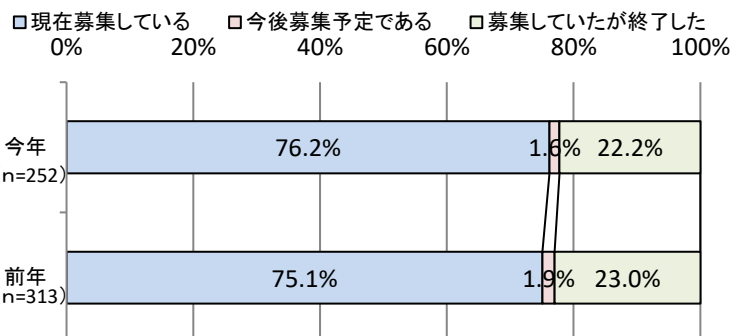
<TOPICS>

- 採用活動を継続している、あるいは募集予定のある企業は全体の58%と前年を1ポイント上回っている(図表1)。採用意向のある企業の採用活動の継続率は78%で前年を1ポイント上回っている(図表2)。業種別に見ると、「製造業」の継続率が他の業種に比べて高くなっている(図表3)。
- 採用継続企業のうち今年度の採用計画を充足できそうにないと回答した企業は全体の62%で前年を6ポイント上回っている(図表4)。地域別に見ると、「県東部」が充足できそうにない企業の割合が最も高く、7割を超えている(図表5)。

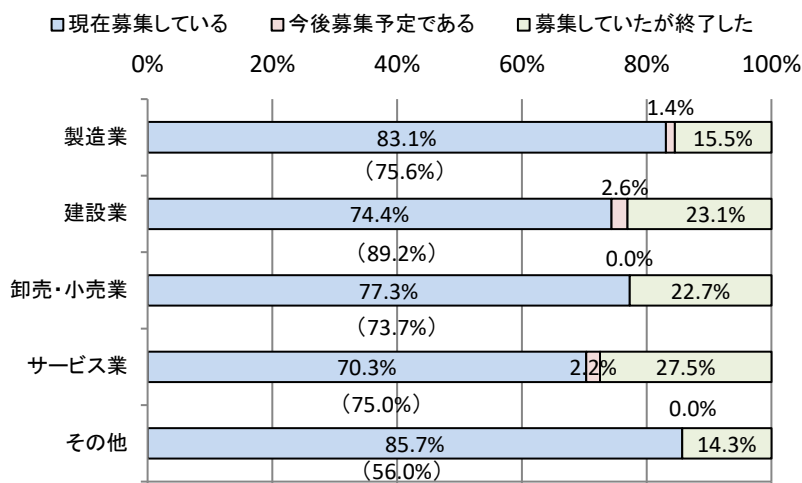
(図表1) 2026年3月卒者の採用募集状況(n=336)



(図表2) 採用意向のある企業の活動継続率

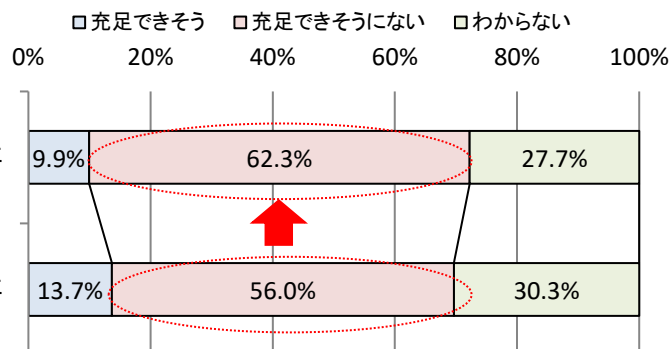


(図表3) 業種別: 採用意向のある企業の活動継続率



表中の()内は前年数値

(図表4) 採用継続企業の採用計画充足見込(n=191)



(図表5) 地域別: 採用継続企業の採用計画充足見込

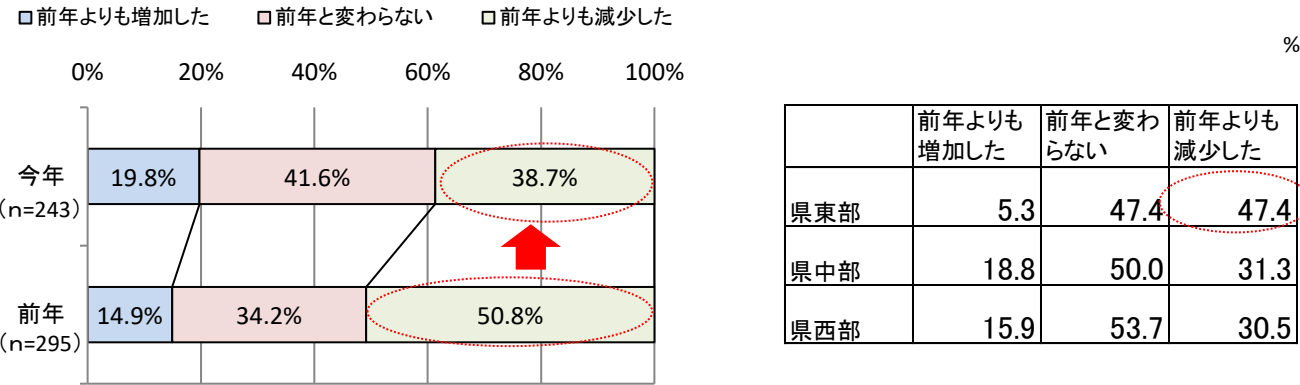
	充足できそう	充足できそうにない	わからない
県東部	8.2	71.4	20.4
県中部	11.4	55.7	32.9
県西部	8.5	63.4	28.2

Ⅱ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較

<TOPICS>

- ・応募者数は「前年よりも減少した」企業の割合は39%で、前年よりも12ポイント減少している（図表6）。地域別に見ると「県東部」が「前年よりも減少した」企業の割合が47%と他地域に比べて最も高くなっている（図表7）。
- ・面接者数は「前年よりも減少した」企業は39%で、前年よりも13ポイント下回っている（図表8）。
- ・内定者数を前年度と比較すると、「前年よりも増加した」企業が40%と最も多く、前年を12ポイント上回っている（図表9）。
- ・地域別に見ると「県東部」の企業は、「前年よりも減少した」企業の割合が最も多く4割を超えている（図表10）。
- ・内定辞退者数を前年と比較すると、「前年よりも増加した」企業の割合が40%と最も高いが、前年数値を3ポイント下回っている（図表11）。

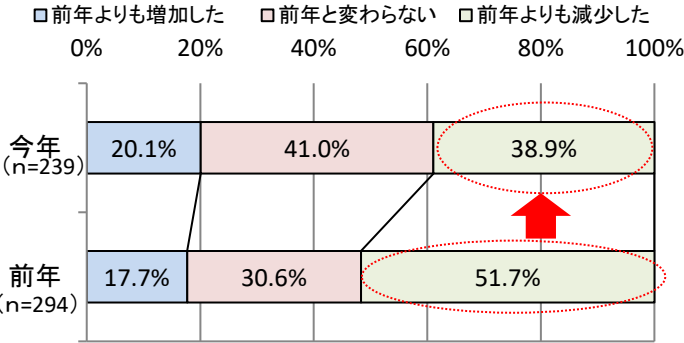
（図表6）応募者数の前年度との比較



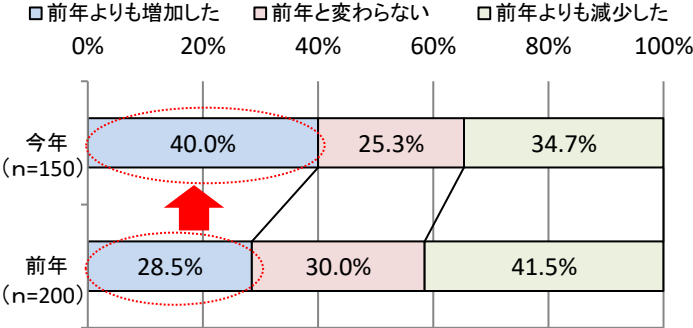
（図表7）地域別：応募者数の前年度との比較

	前年よりも増加した	前年と変わらない	前年よりも減少した
県東部	5.3	47.4	47.4
県中部	18.8	50.0	31.3
県西部	15.9	53.7	30.5

（図表8）面接者数の前年度との比較



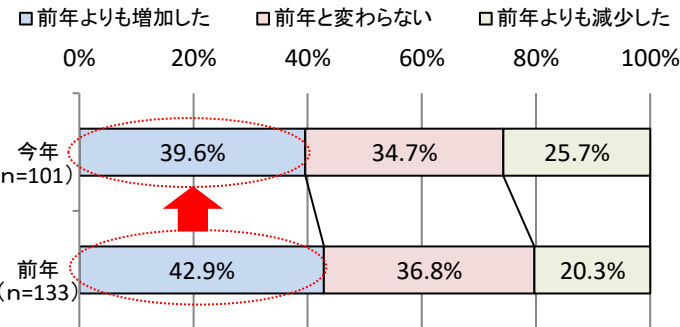
（図表9）内定者数の前年度との比較



（図表10）地域別：内定者数の前年度との比較

	前年よりも増加した	前年と変わらない	前年よりも減少した
県東部	31.0%	27.6%	41.4%
県中部	40.6%	24.6%	34.8%
県西部	43.1%	25.5%	31.4%

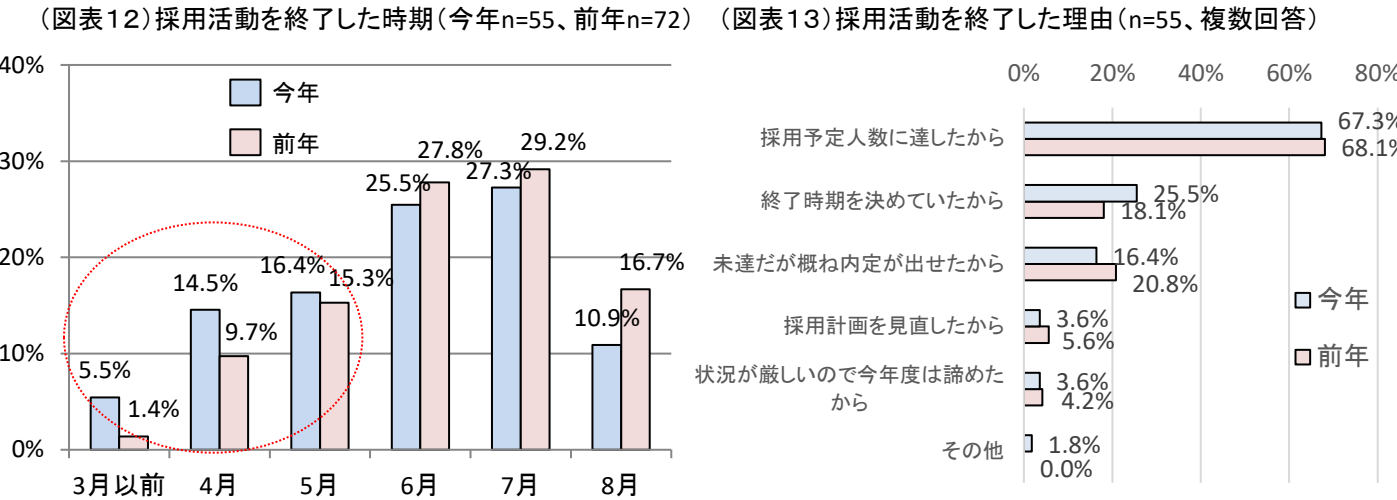
（図表11）内定辞退者数の前年度との比較



III. 採用活動終了企業の活動実績

<TOPICS>

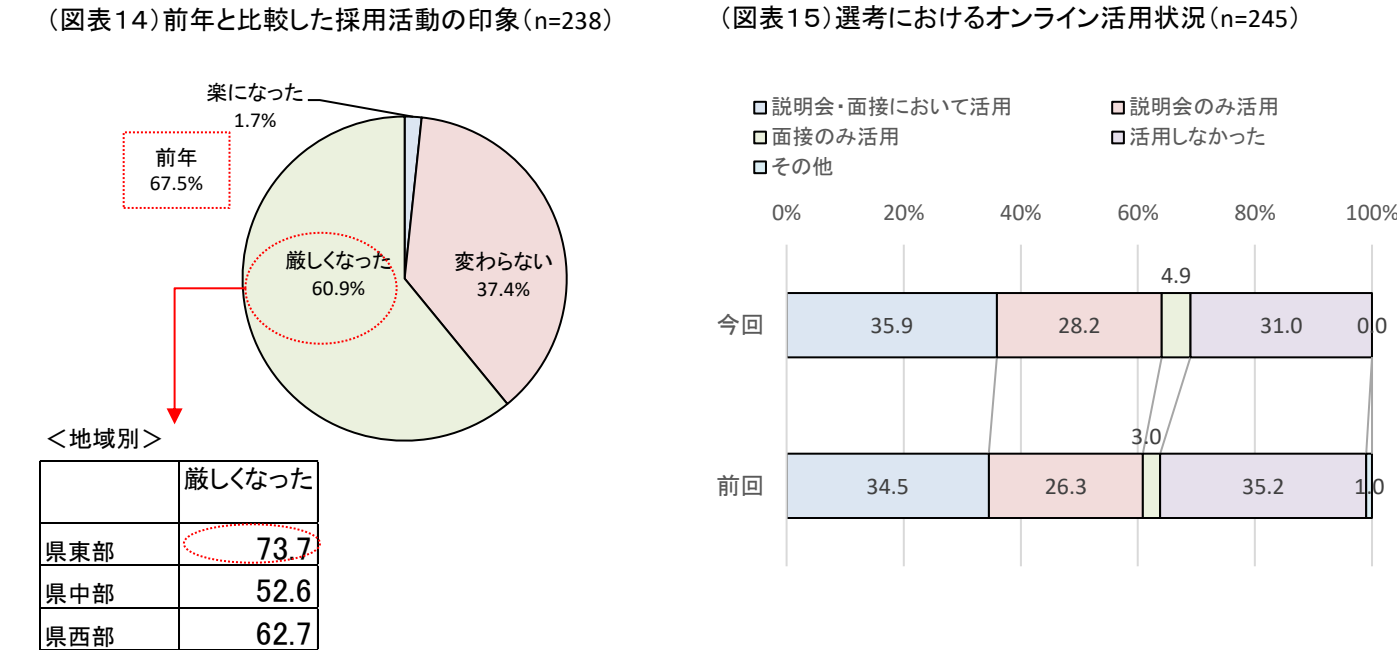
- 採用活動の終了時期は「7月」「6月」の順で多いが、両月ともに前年数値を下回っている。「3月以前」「4月」「5月」はいずれも前年数値よりも上回っている(図表12)。
- 採用活動を終了した理由は、「採用予定人数に達したから」が67%と最も多く、前年を1ポイント下回っている。次に多いのが「終了時期を決めていたから」で前年を7ポイント上回っている(図表13)。



IV. 今年度の採用活動の状況

<TOPICS>

- 前年と比較した今年の採用活動の印象は「厳しくなった」と回答した企業の割合が61%と最も多いが、前年を7ポイント下回っている。地域別に見ると、「県東部」の企業は「厳しくなった」と回答した割合が7割を超えている(図表14)。
- 選考におけるオンライン活用状況は、「活用しなかった」企業の割合が31%と、前年を4ポイント下回っている。オンラインを活用した企業の割合は前年よりも5ポイント上回っている(図表15)。

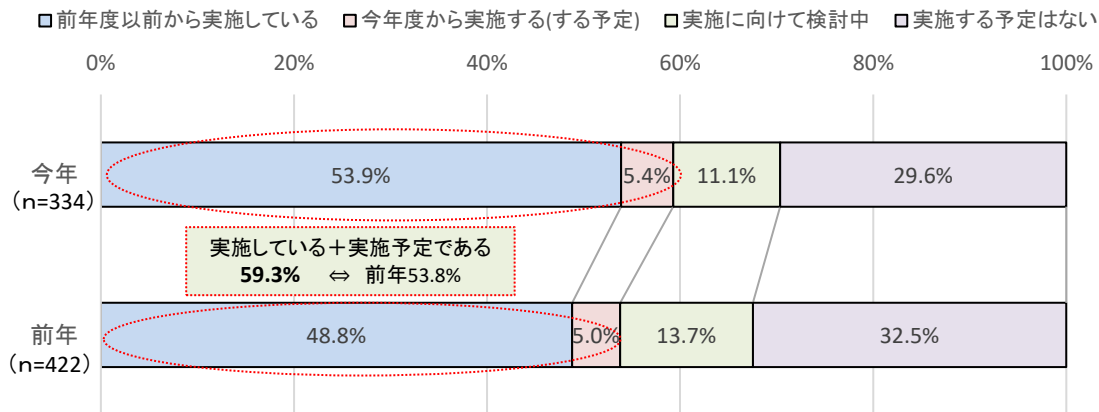


V. インターンシップ等の実施状況

<TOPICS>

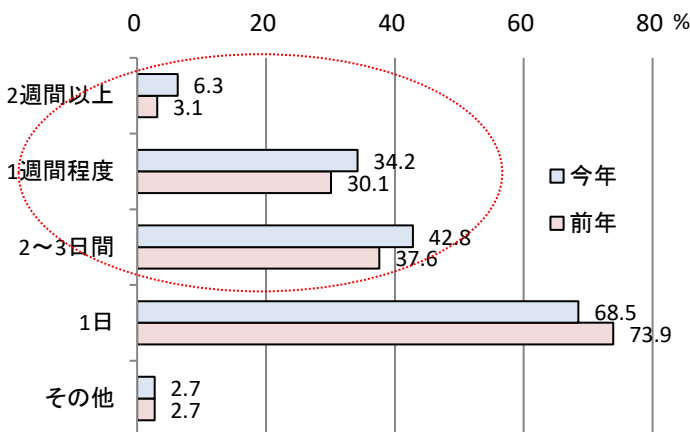
- ・インターンシップ等を実施している企業の割合は59%で、前年を6ポイント上回っている(図表16)。
- ・実施期間は「1日」が69%と最も多いが、前年よりも5ポイント減少している。「2～3日間」「1週間程度」「2週間以上」は全て前年を上回っている。最も割合が増えたのは「2～3日」となっている(図表17)。
- ・受入学年は「大学3年生」が88%と最も多いが、「大学1年生」「大学2年生」「大学4年生」の割合が前年よりも増加している。とくに「大学2年生」はその割合が5割を超えている(図表18)。
- ・8～9月のインターンシップ実施回数は、「変えていない」企業が61%と最も多い。前年よりも「増やした」企業の割合は35%で前年数値を2ポイント下回っている(図表19)。
- ・三省合意で認められるインターンシップ(5日以上、うち半分以上は就業体験)を実施する予定については、43%の企業が「実施予定なし」としているが、「実施予定」と回答した企業が39%と前年よりも8ポイント上回っている(図表20)。

(図表16) インターンシップ等の実施状況

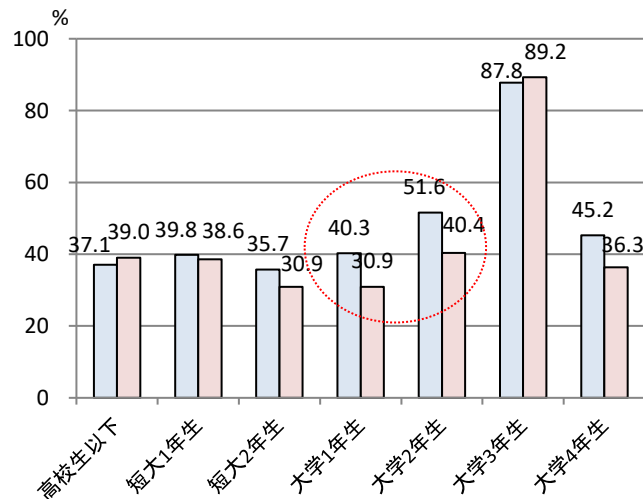


(図表17) インターンシップ等の実施期間

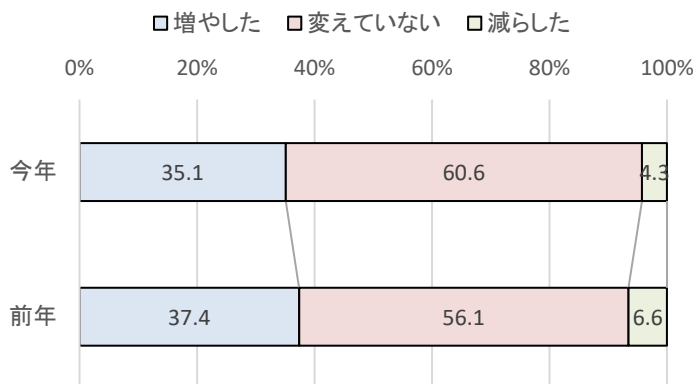
(n=222、複数回答)



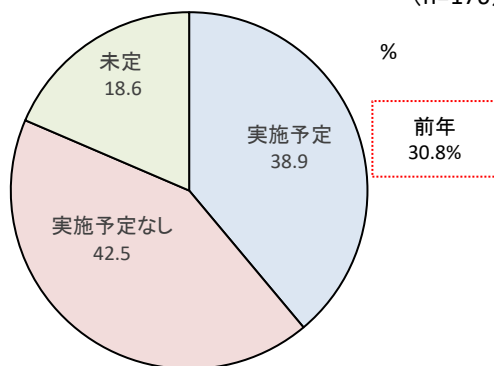
(図表18) インターンシップ等の受入学年(n=221、複数回答)



(図表19) 8～9月のインターシップ実施回数
の前年比較 (n=188)



(図表20) 三省合意で認められるインターンシップ
(5日以上、うち半分以上は就業体験)の実施予定
(n=176)

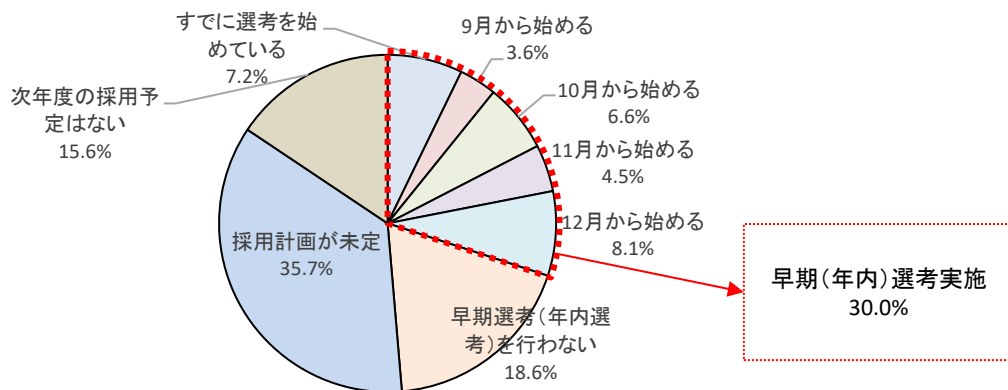


VI. 2027年3月卒者の採用活動について

<TOPICS>

- ・2027年3月卒者の選考について、8月時点では「採用計画が未定」としている企業が36%と最も多くなっている。一方で早期選考(年内選考)を実施予定の企業の割合は30%、早期選考(年内選考)を実施しない企業の割合は19%となっている(図表21)。
- ・早期選考(年内選考)を実施予定の企業において、年内に内々定を出す予定の企業の割合は56%と半数を超えている。(図表22)。

(図表21) 2027年3月卒者の早期選考(年内選考)の状況 (n=333)



(図表22) 早期選考実施予定企業の2027年3月卒者への内々定出しのタイミング (n=101)

